

650-41



1200501569360

650
41

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

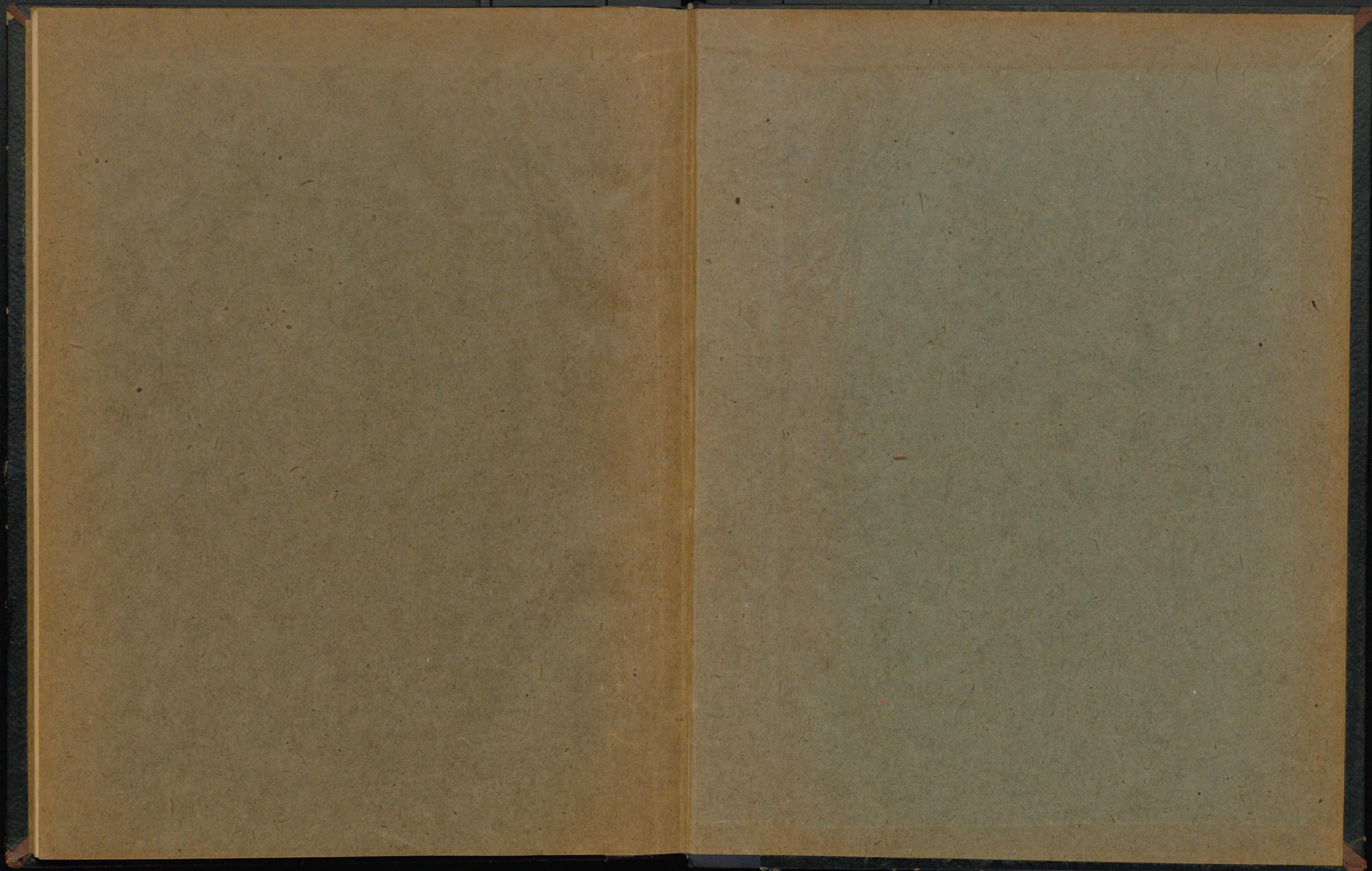
A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

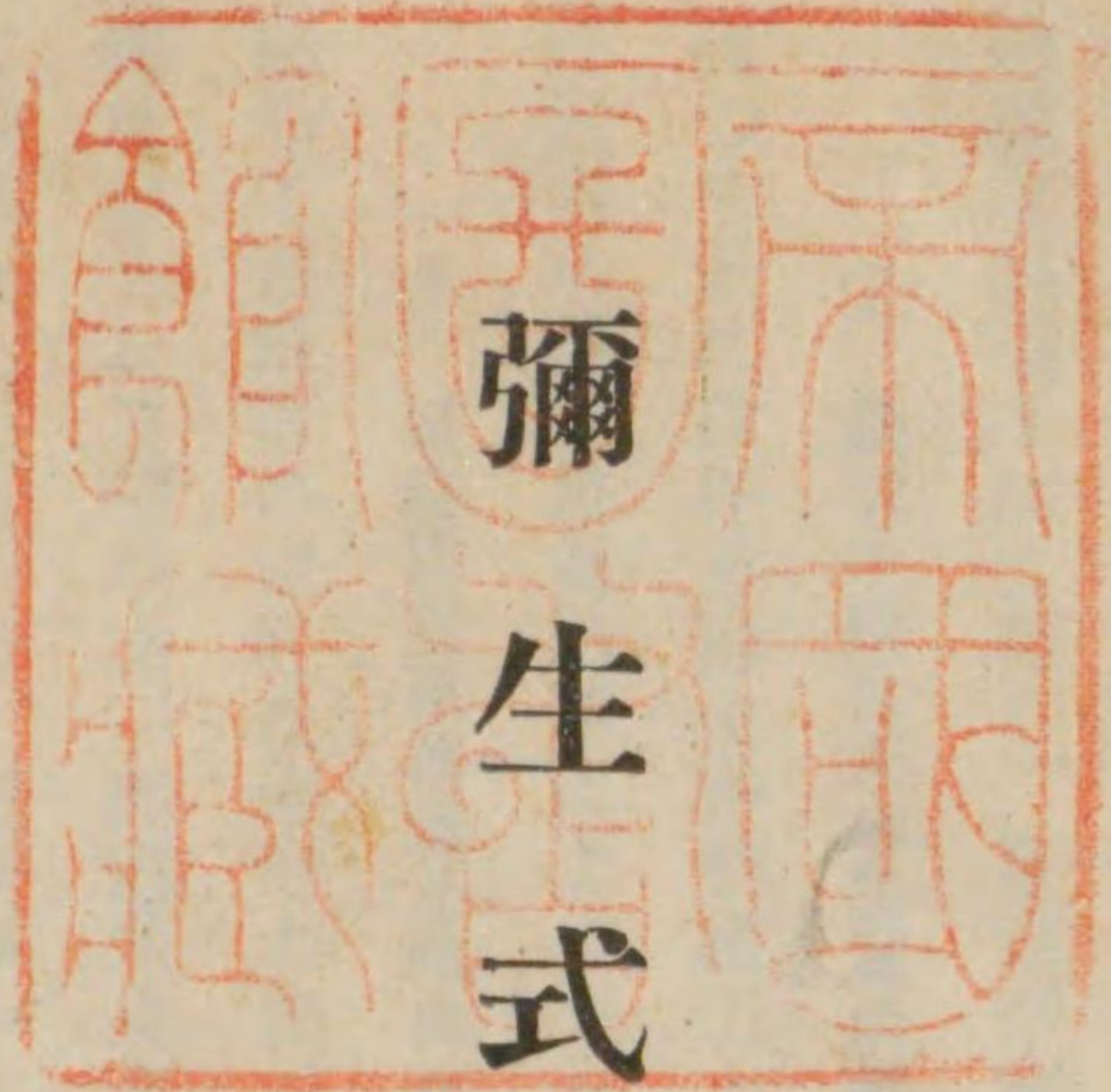
Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
1	2	3	4	5	6	7	8	9

Ruler: 1 2 3 4 5 6 7 8 inches / 1 2 3 4 5 6 7 8 cm



森本六爾編

東京考古學會彌生式土器圖集 第一輯



土器序集一



昭和八年七月

東京考古學會

1 東京市本郷區彌生町向ヶ岡發見土器

此の土器は學史的に認識された最初の彌生式土器として有名である。明治十七年三月故白井光太郎氏によつて檢出され、明治二十一年四月故坪井正五郎氏によつて學界に報告され、爾後世の注意に上つた。高さ約六寸二分。色は赤味を帯びた黄色で、土質中には小砂利が混ざつてゐる。上部破口の傍に圓形浮文を附し、其の下には所謂羽狀繩文が施されてゐる。東京帝國大學理學部人類學教室所藏。(森本六爾「最初の彌生式土器」考古學第四卷二號參照)

2 最初の彌生式土器寫生圖と實測圖

向つて左は故坪井博士が明治二十一年「東洋學藝雜誌」第九十一號に報告を掲げられた際添へられて寫生圖で、右は近頃小林行雄君の手によつてなされた實測圖である。第1圖と併せて觀られたい。

3 武藏國荏原郡池上町久ヶ原發見土器

向つて左は形の完好な壺形土器で高さ一尺五分。口部より頸部に亘つて鐵丹を最もよく塗り、肩郎を中心に羽狀繩文からなる帶狀文、鋸齒狀文を施してゐる。右は高八寸九分。土器の上半は輪積といふ製作過程を其の儘殘して裝飾としたもので、黒味多い褐色をなし、稍粗なる粘土を用ひてゐる。共に徳富武雄氏所藏。(中根君郎・徳富武雄「東京市久ヶ原に於ける彌生式遺蹟・遺物並に其の文化階梯に關する考察」考古學雜誌第十九卷十一號・第二十卷四號參照)

4 武藏國橘樹郡新田村高田及久ヶ原發見土器

向つて左は高さ約九寸九分。口部、肩部、胴部にそれぞれ裝飾及び文様が施され、且つ外部には鐵丹を塗つたらしく、内面にも頸部以上に其の痕跡がある。表面には滑澤を有してゐる。大山史前學研究所々藏。(宮坂光次「高

田の彌生式土器(史前學雜誌第一卷一號參照)。右は前記久ヶ原出土のもので、共に徳富氏所藏。高杯は高さ五寸一分。文様として羽狀繩文が施されてゐる。

5 相模國足柄下郡小田原町發見土器

小田原監獄構内で發見し、共に東大理學部人類學教室所藏。向つて左は高さ五寸七分。肩部に相對して孔を穿ち、口部より肩部に互り文様が施されてゐる。白色を帯びた褐色で、底に粗い蓆文がある。向つて右は下底部を缺いてゐる。口縁部に各々相對して二孔を穿ち、且つ肩部に文様を有してゐる。高さ現存部で三寸五分。稍赤味を帯びた褐色を呈してゐる。

6 尾張國名古屋市發見土器

向つて左は有名な熱田高座貝塚の出土で、高約一尺五分、近時東京帝室博物館の所藏に歸した。口縁部及び肩部に施されてゐる文様は寫眞の通りであるが、尙口縁内部にも羽狀文帯がある。口縁部及び胴部以下には鐵丹を塗る。底部は小さく不安定である。右は左と同一様式のもので同市呼続町發見、高さ約一尺一寸五分、現在東大理學部人類學教室所藏である。

7 稻痕ある土器

向つて左は三河國寶飯郡小坂井附近に於て愛電工事の際出土したものである。高さ約七寸六分、良質粘土によつて製作され、表面はよく磨かれてゐる。底部に近く剝脫面があり、素地中に籾の壓痕がある。同土器の下に其の部分を示す。國學院大學所藏。右の上半は大和國高市郡中曾司遺跡から檢出された土器底部に、五個の籾痕及稻の葉痕等を印したものである。國學院大學所藏。右下は尾張國名古屋市西志賀貝塚から出土した壺形土器破片

の素地中にまた籾痕をとどめた例である。藤澤一夫氏所藏。

8 大和國磯城郡唐古發見土器破片

僅か三寸三分の破片中に三個の鹿を陰刻したもの、往々銅鐸に見る動物畫と併せ見るべきものである。森本六爾所藏。(森本六爾「原始的繪畫を有する彌生式土器について」考古學雜誌十四卷四號參照)

9 大和國磯城郡唐古發見土器破片

土器破片中に、人物及び丸木船らしい陰刻畫をとどめてゐる。現存長さ約三寸八分。飯田隆藏氏所藏。(森本六爾「日本石器時代の繪畫とその示現する生活」教育畫報二十卷二號參照)

10 大和國磯城郡唐古發見土器破片

向つて左は猪らしいものを現した小殘片、右は走れる鹿を現したものである。共に飯田隆藏氏所藏品。(森本六爾「大和に於ける史前の遺跡」考古學雜誌十四卷十二號參照)

11 大和國高市郡新澤村一發見土器

高さ七寸二分あるビーカー形土器で、肩部に環狀把手を附してゐる。器體の全面に所謂櫛目文を附し、脚部には木葉狀の透しを鋸齒狀に穿つてゐる。色は黒褐色を帯びてゐる。菅原小學校所藏。(吉田宇太郎「新澤村石器時代遺蹟報告」奈良縣史蹟調査報告書「十參照」)

12 攝津國三島郡安滿發見土器

京大攝津農場遺跡から出た高さ二尺一寸ある大形土器で、細長い頸と大きく開いた口が眼立つ。文様は實測圖に示すが如く、所謂櫛目文文様が施されてゐる。京都帝國大學文學部考古學教室所藏。(島田・水野・小川・三宅「攝津

農場石器時代遺跡調査報告」人類學雜誌第四十四卷七號參照)

13 播磨國明石郡玉津村吉田發見土器

底部を失つた壺形土器で、殘字部の高さ三寸三分。木葉狀文が施されてゐる。面稍と滑かである。現今木葉狀文を有する土器中、形の判明する唯一の例である。直良信夫氏所藏。(直良信夫・小林行雄「播磨國吉田史前遺跡研究」考古學第三卷五號參照)

14 備中國都窪郡倉敷町發見土器

向つて左は口部を失つてゐるが肩部に刻目ある突帯裝飾を有する大形の壺で、底部は丸底に近い極く不安定な底を持つてゐる。右は口部の外縁に鋸齒文帶を有する大形土器である。福原八郎氏所藏。

15 周防國熊毛郡大波野發見土器・銅器

向つて左は高さ七寸三分、口唇には刻目文があり頸から肩に亘つて施文がある。底部は比較的小さい。右は伴出した銅器殘缺で銅鏡の破片らしい。土器は弘津史文、銅器は柴田常惠氏所藏。(柴田常惠「周防に於ける青銅器彌生式土器伴出の遺跡」考古學研究三年一號參照)

16 長門國豐浦郡安岡町發見土器

大形壺の殘片で、貝殼施文具によつて木葉狀文を附してゐる。徳富武雄氏所藏。(森本六爾「長門發見の彌生式土器」考古學一卷三號參照)

17 筑前國二日市・豐前國糸田發見土器

向つて左は筑前國筑紫郡二日市町原口から出た高さ約七寸二分ある壺形のもの。右は豐前國田川郡糸田村から

石劍と伴出した土器で、高さ六寸七分全面赤色を塗つてゐる。共に無文。漢式土器に似てゐて注意を惹くものである。右は東京帝室博物館所藏。

18 筑前國今山發見土器

共に有孔の小土器で、向つて左は三寸二分、右は三寸六分餘。用途に就ては數説がある。(中山平次郎「一種の有孔土器」考古學三卷一號參照)

19 筑後國三井郡寺福堂發見甕棺

全長三尺七寸二分を測り、上下の甕は其の形を異にしてゐる。兩甕の合せ目には粘土を以つて取り卷いたらしい。京大文學部考古學教室所藏。(水野清一・島田貞彦「北九州に於ける甕棺調査報告」人類學雜誌四十三卷十號參照)

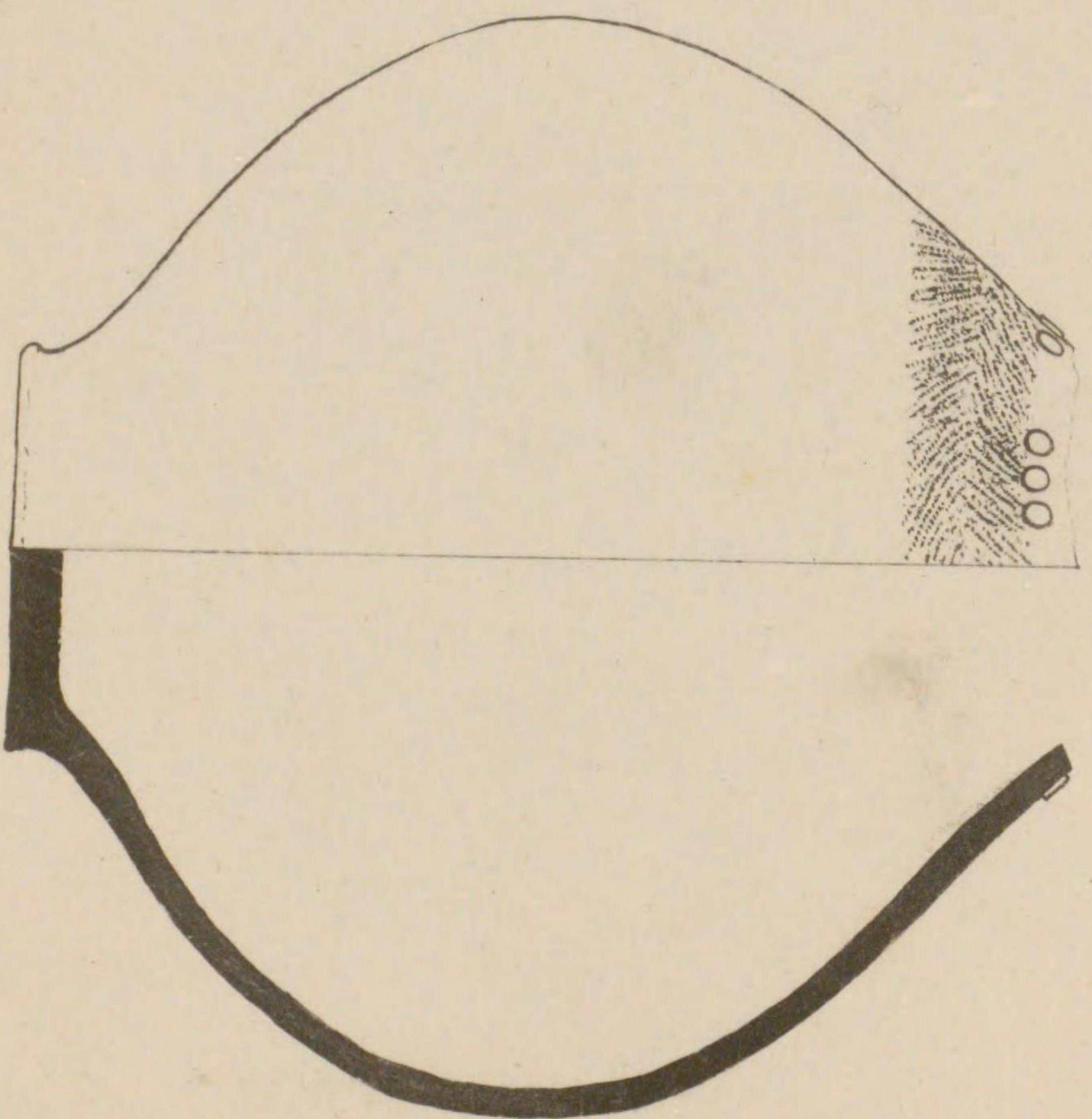
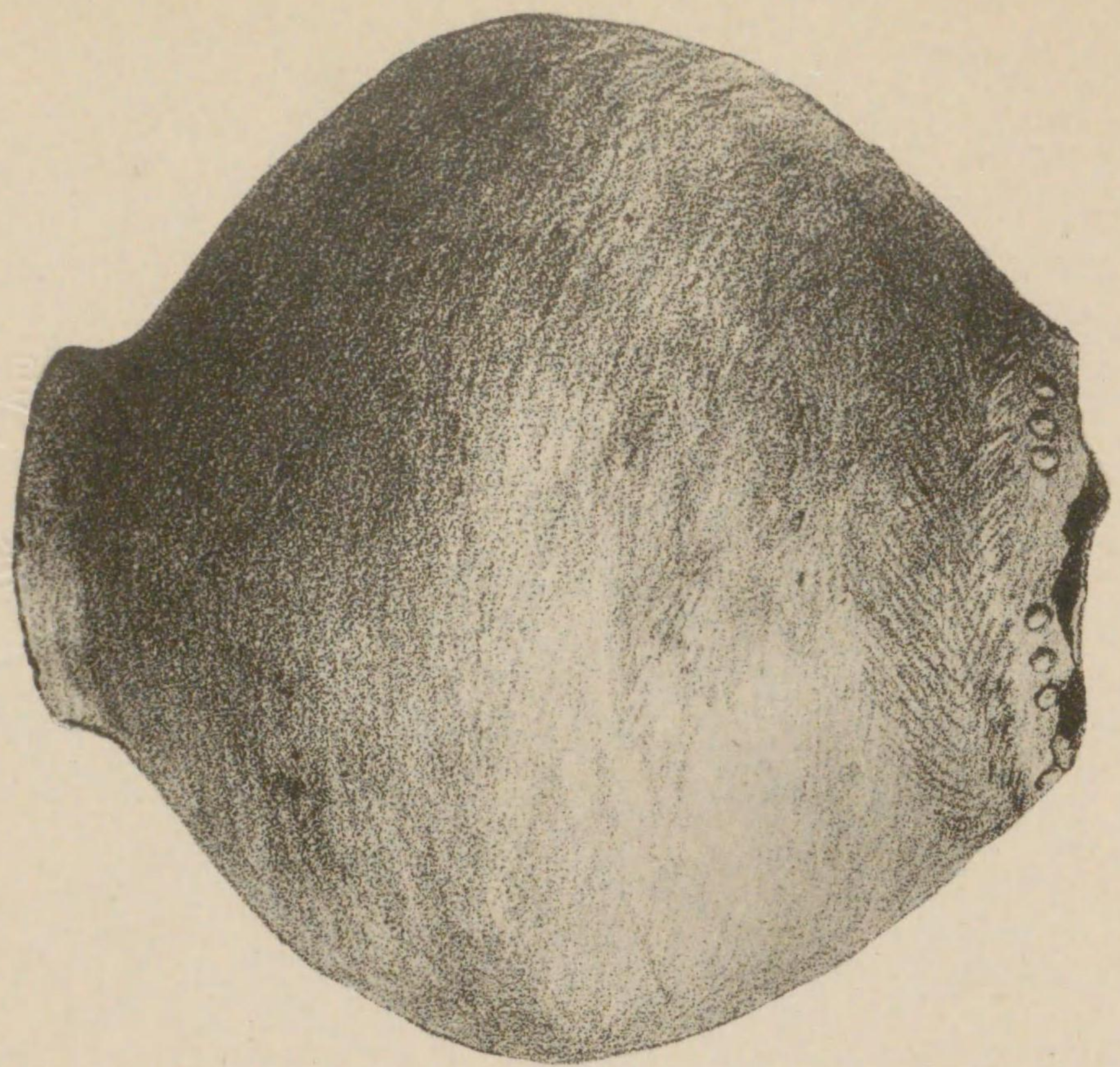
20 肥後國下益城郡隈庄町發見土器

向つて左は白堊色を呈し、小砂利を混へてゐる。重弧狀文を主文とし、高さ約六寸一分。右は一尺二寸六分弱の大形同様式土器で、口部を缺いてゐる。(小林久雄「肥後國下益城郡隈庄町出土の彌生式土器」考古學三卷一號參照)



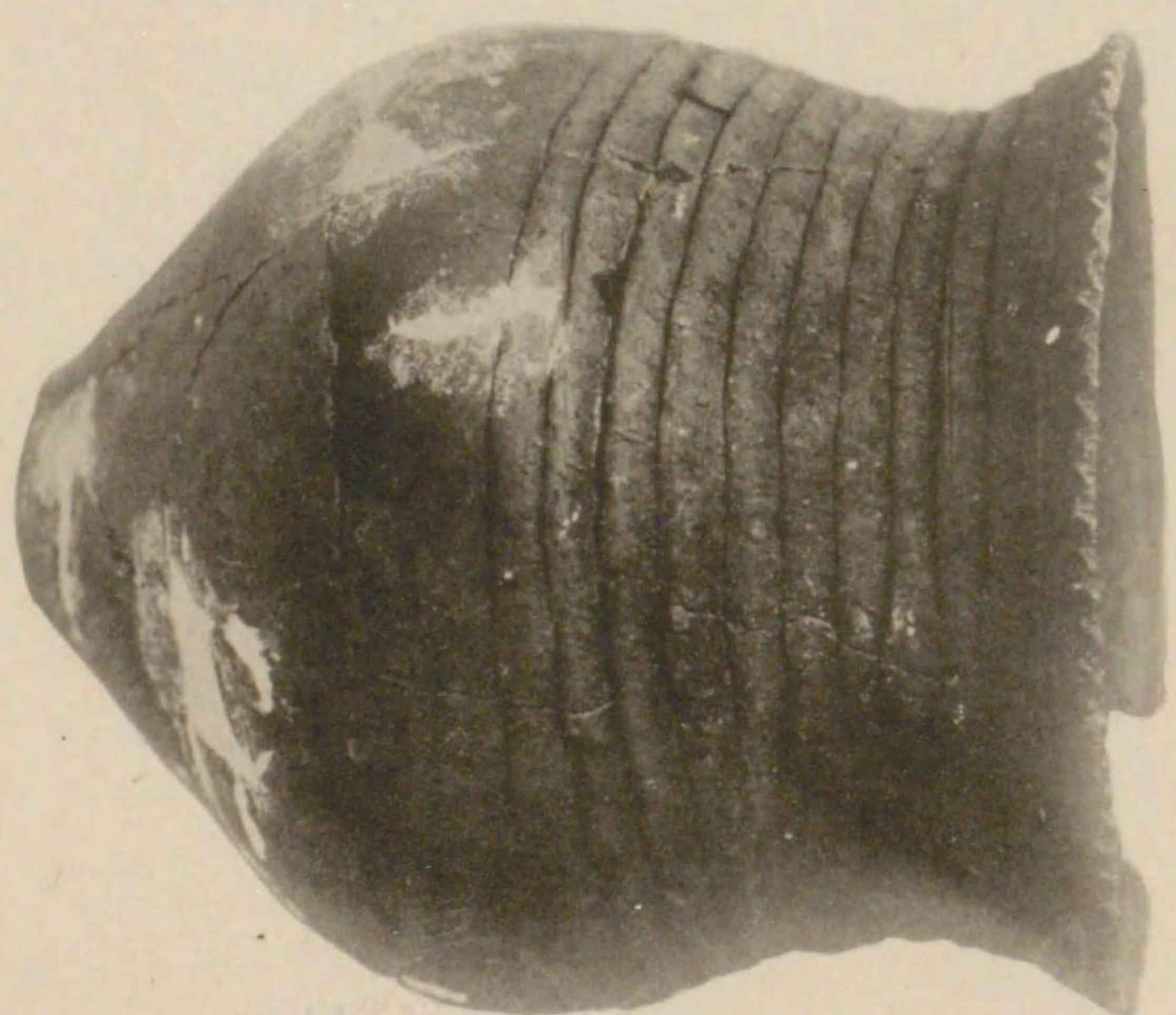
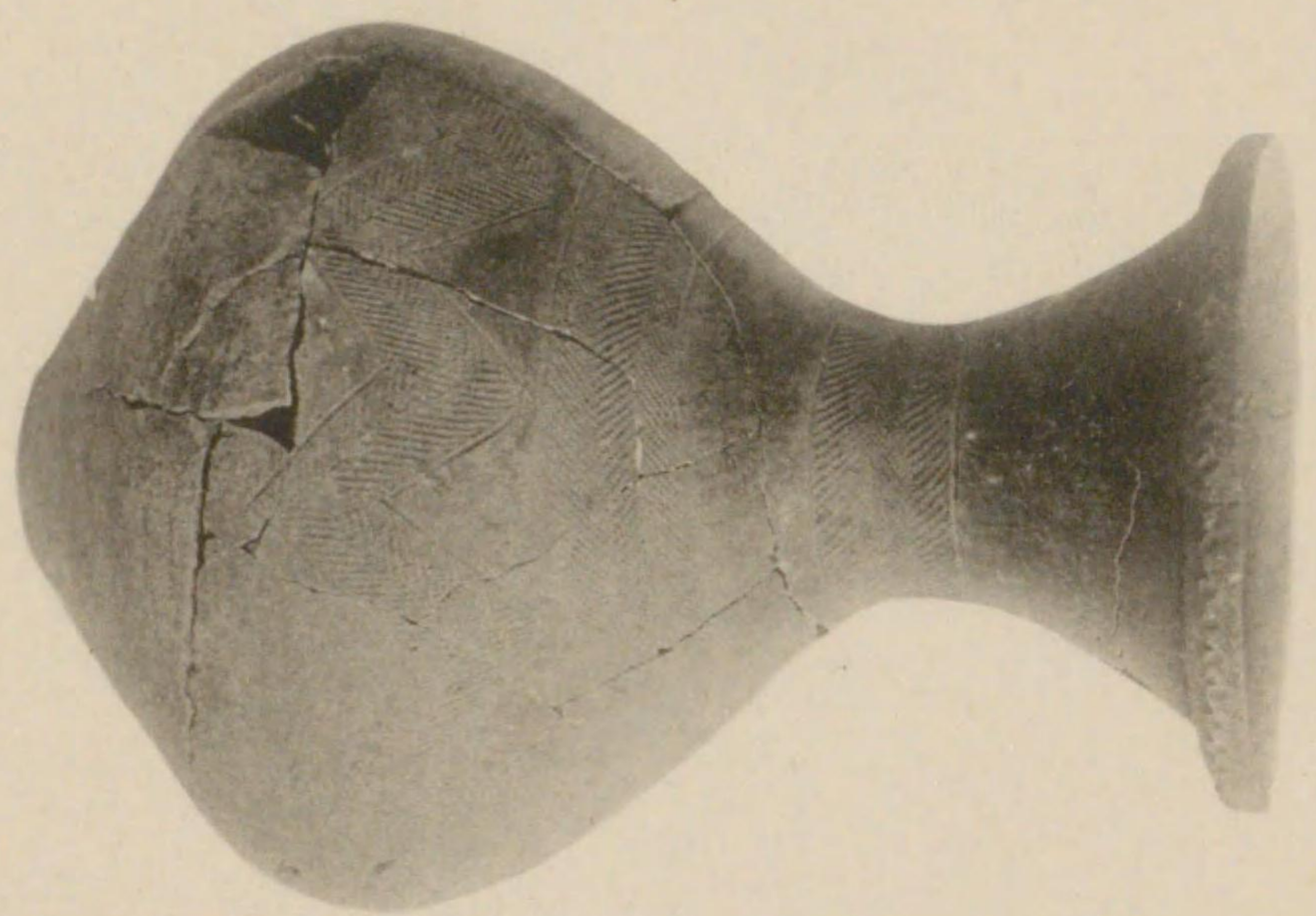
1. 東京市本郷區彌生町向ヶ岡發見土器

古 器 類



2. 最初の彌生式土器寫生圖と實測圖

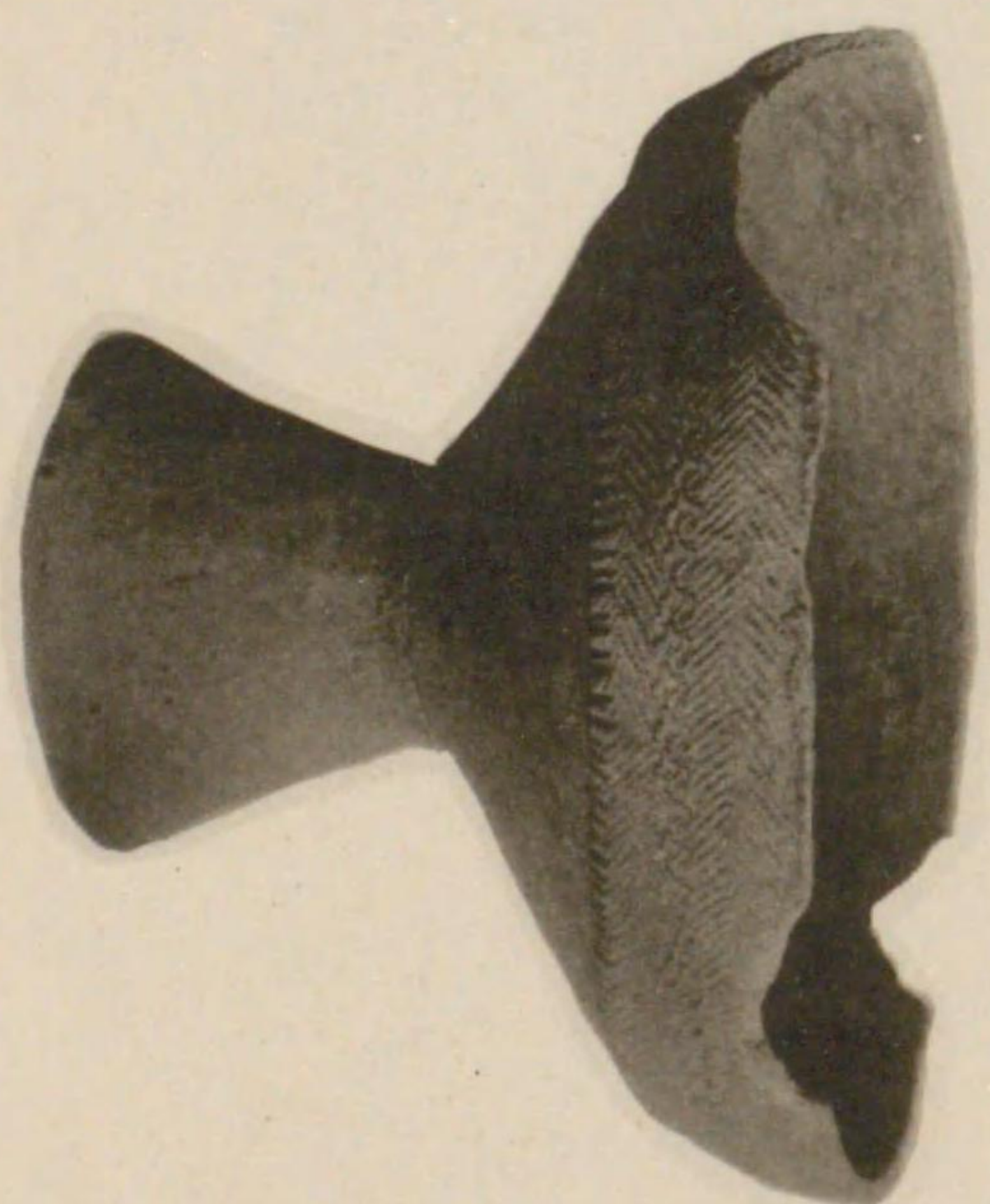
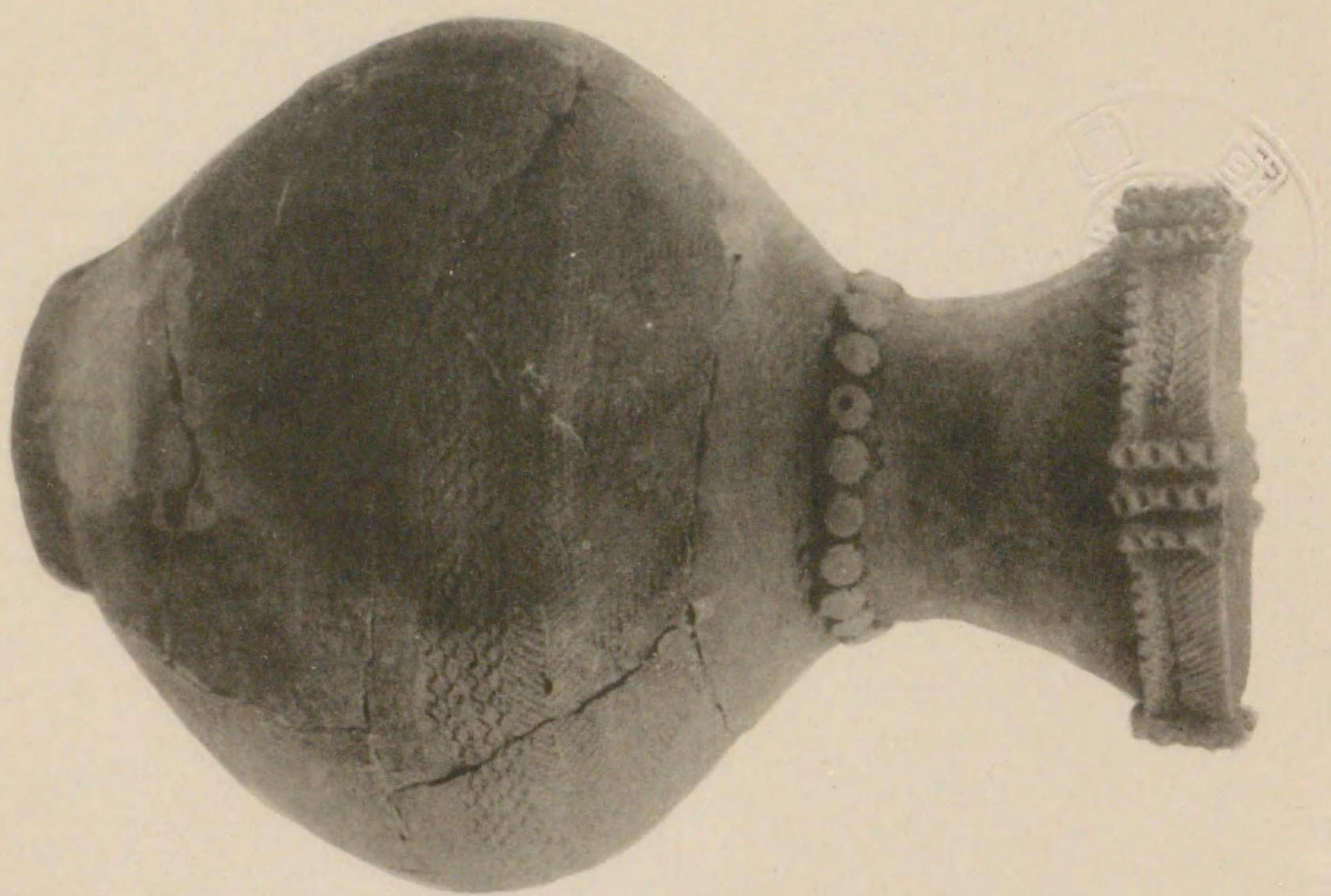
2. 最初の彌生式土器寫生圖と實測圖



3. 武藏國荏原郡池上町久々原發見土器



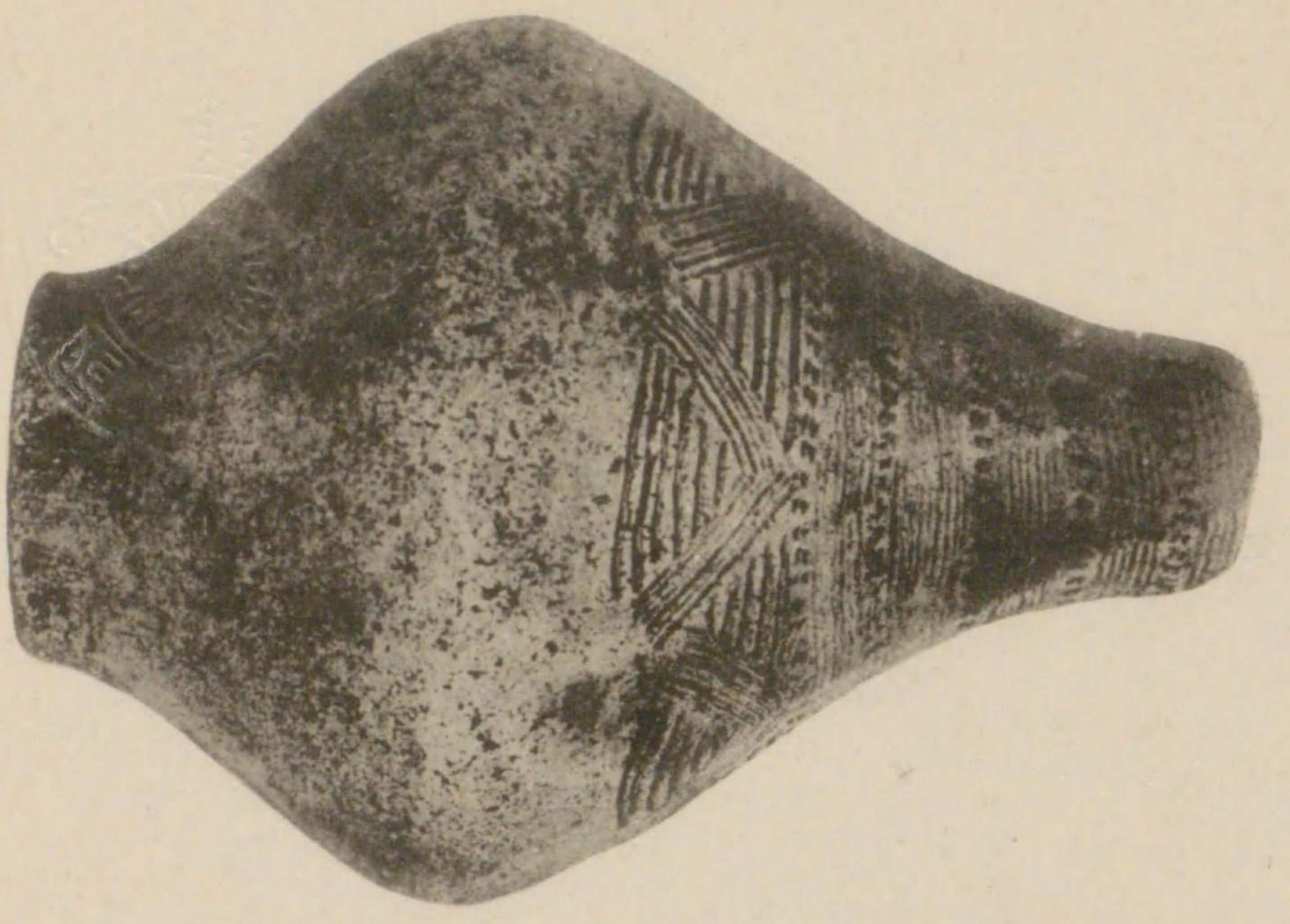
Faint vertical text or markings on the right page, possibly bleed-through or a stamp.



4. 武藏國桶樹郡新田村高田及久ヶ原發見土器

武藏國桶樹郡新田村高田及久ヶ原發見土器

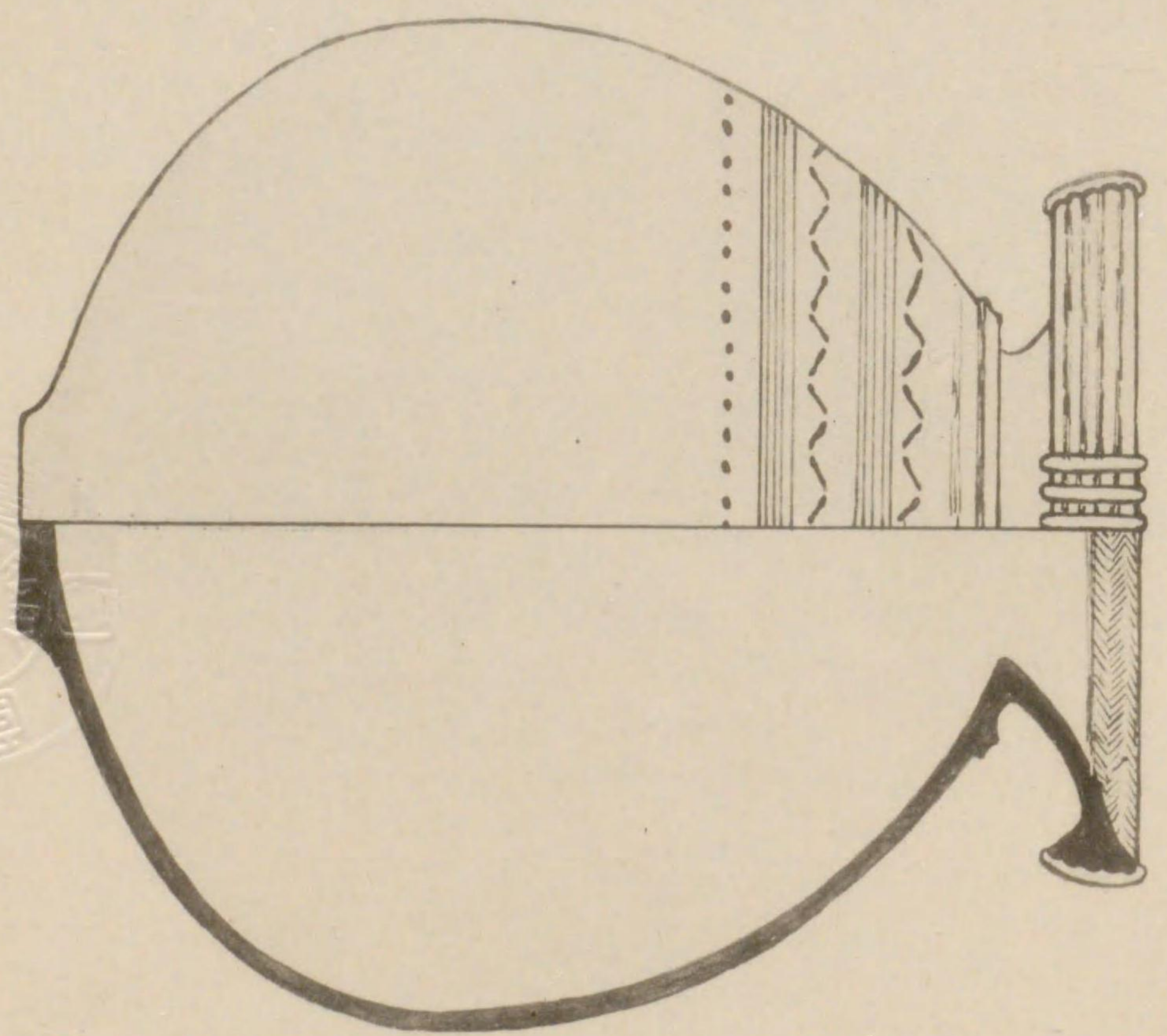
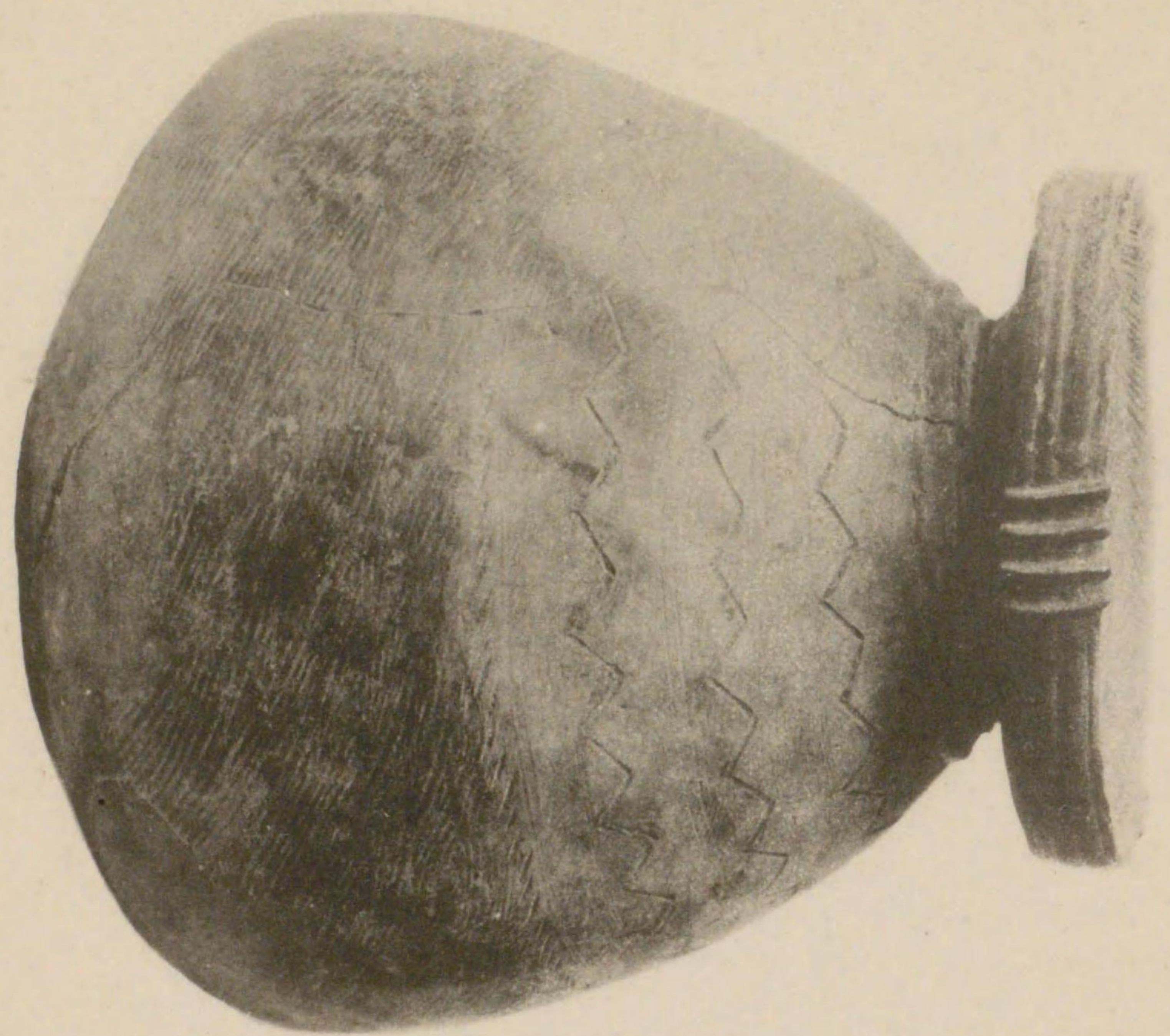




5. 相模國足柄下郡小田原町發見土器

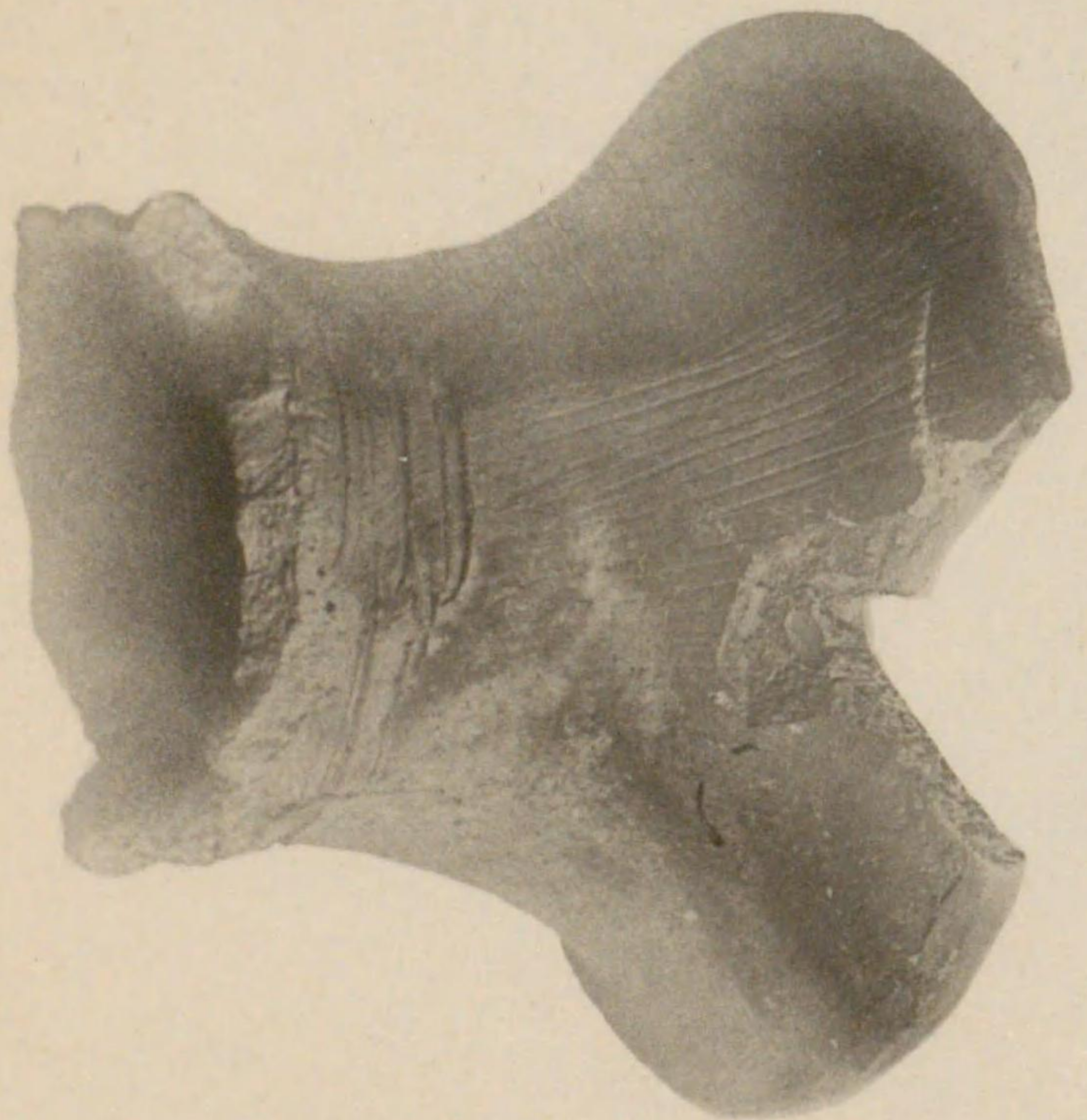
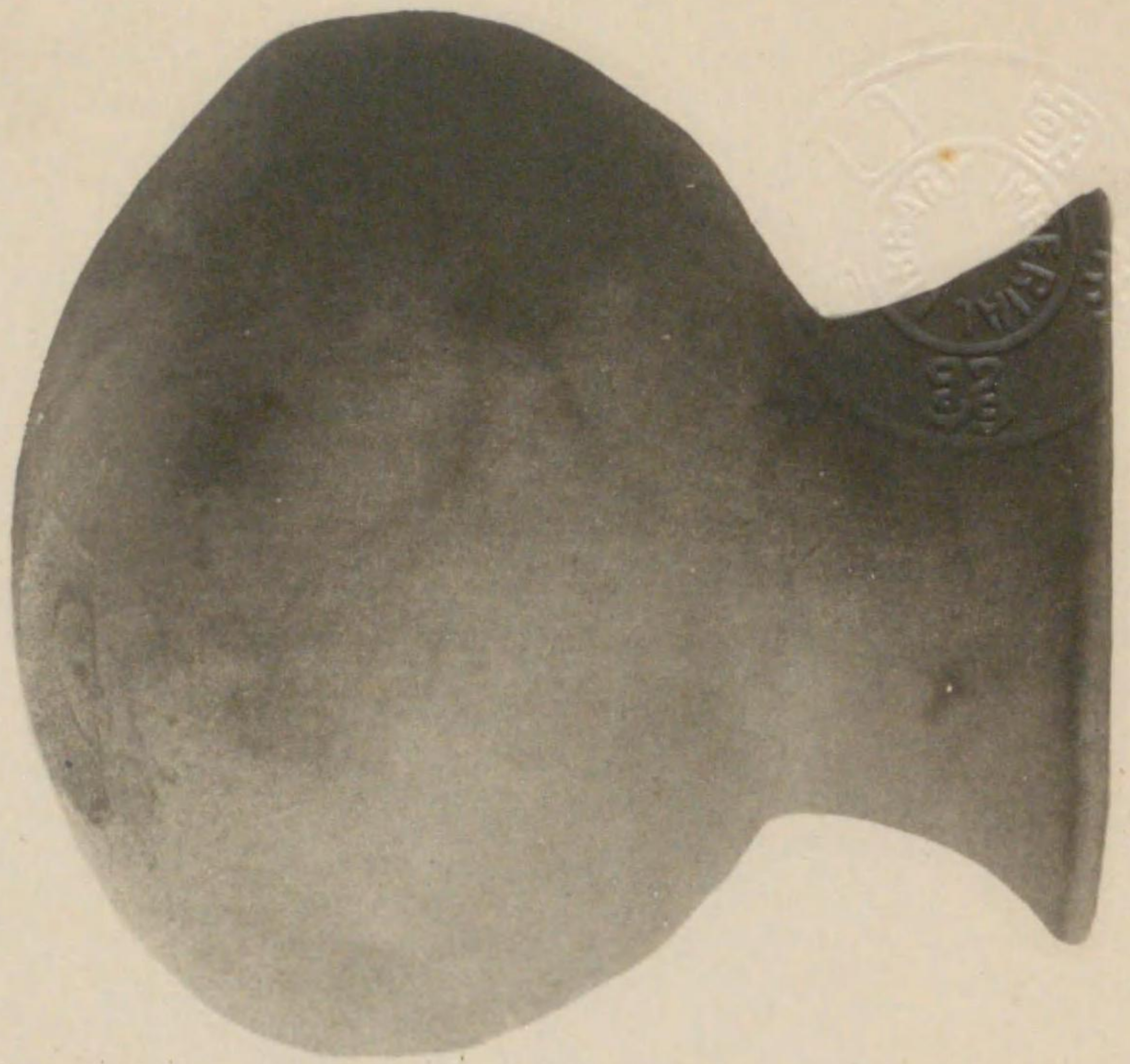


相模國足柄下郡小田原町發見土器



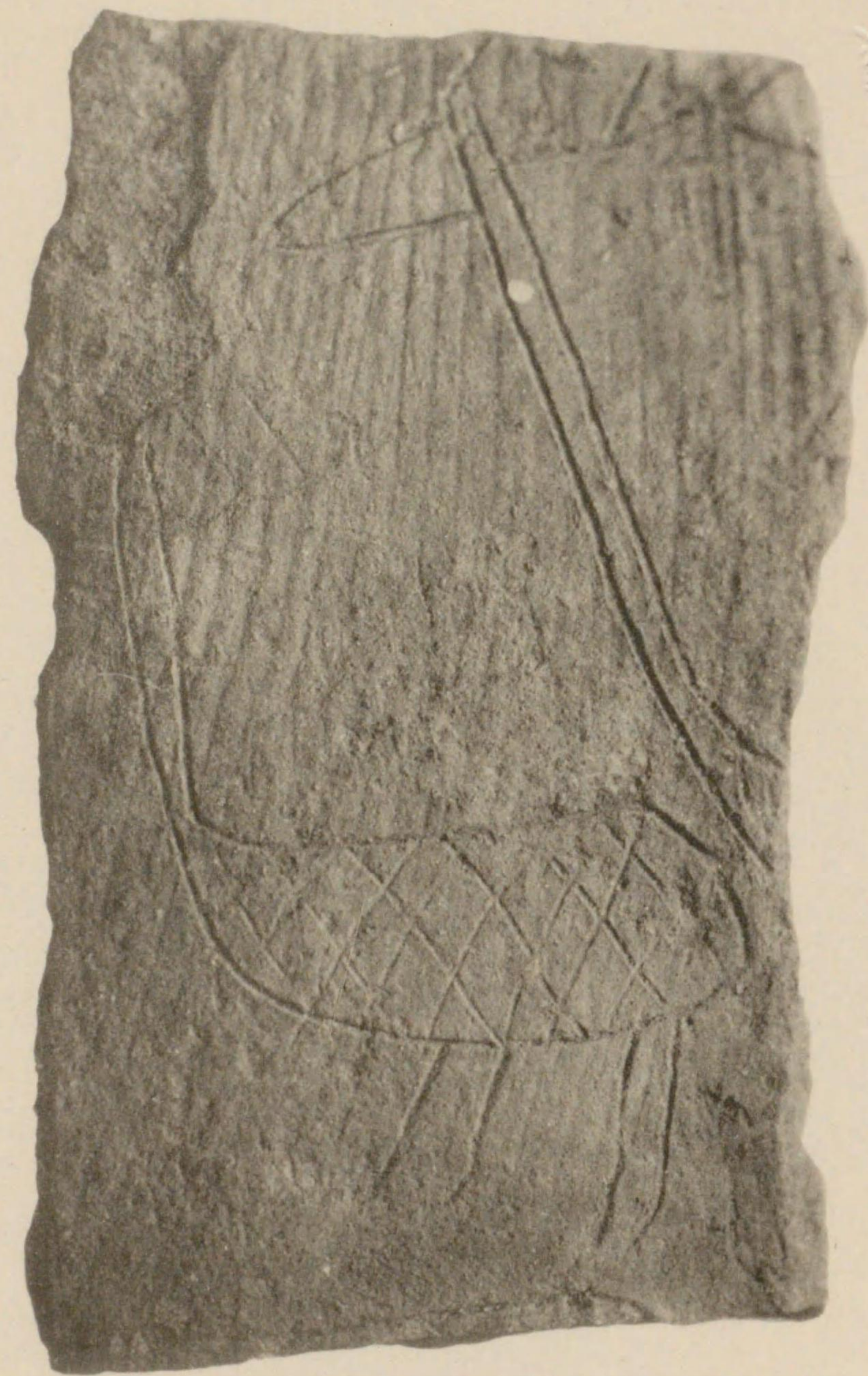
6. 尾張國名古屋市發見土器

尾張國名古屋市發見土器



7. 稻痕ある土器





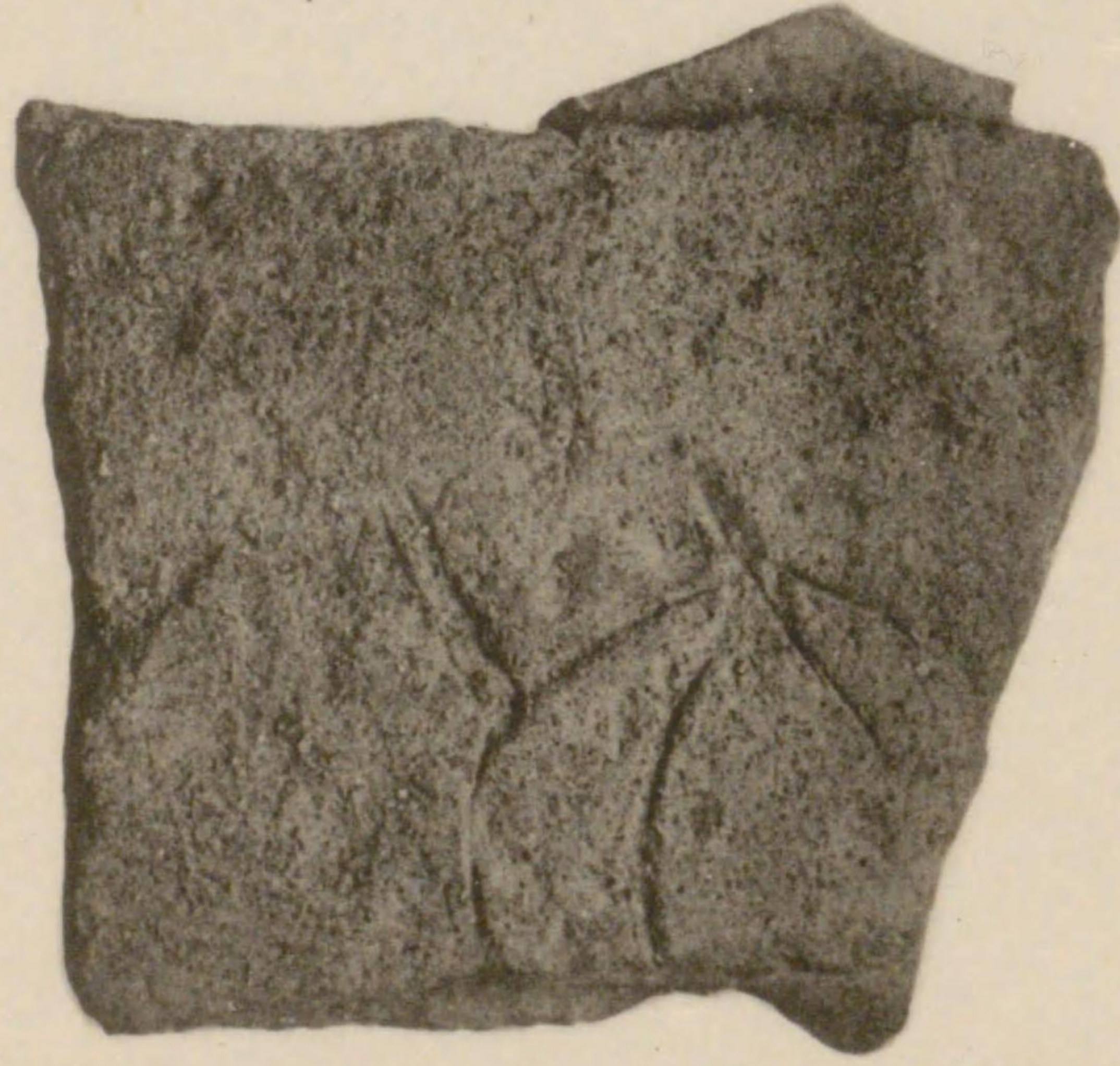
8. 大和國磯城郡唐古發見土器破片



9. 大和國磯城郡唐古發見土器破片

大和國磯城郡唐古發見土器破片

10. 大和國磯城郡唐古發見土器破片



大和國磯城郡唐古發見土器破片





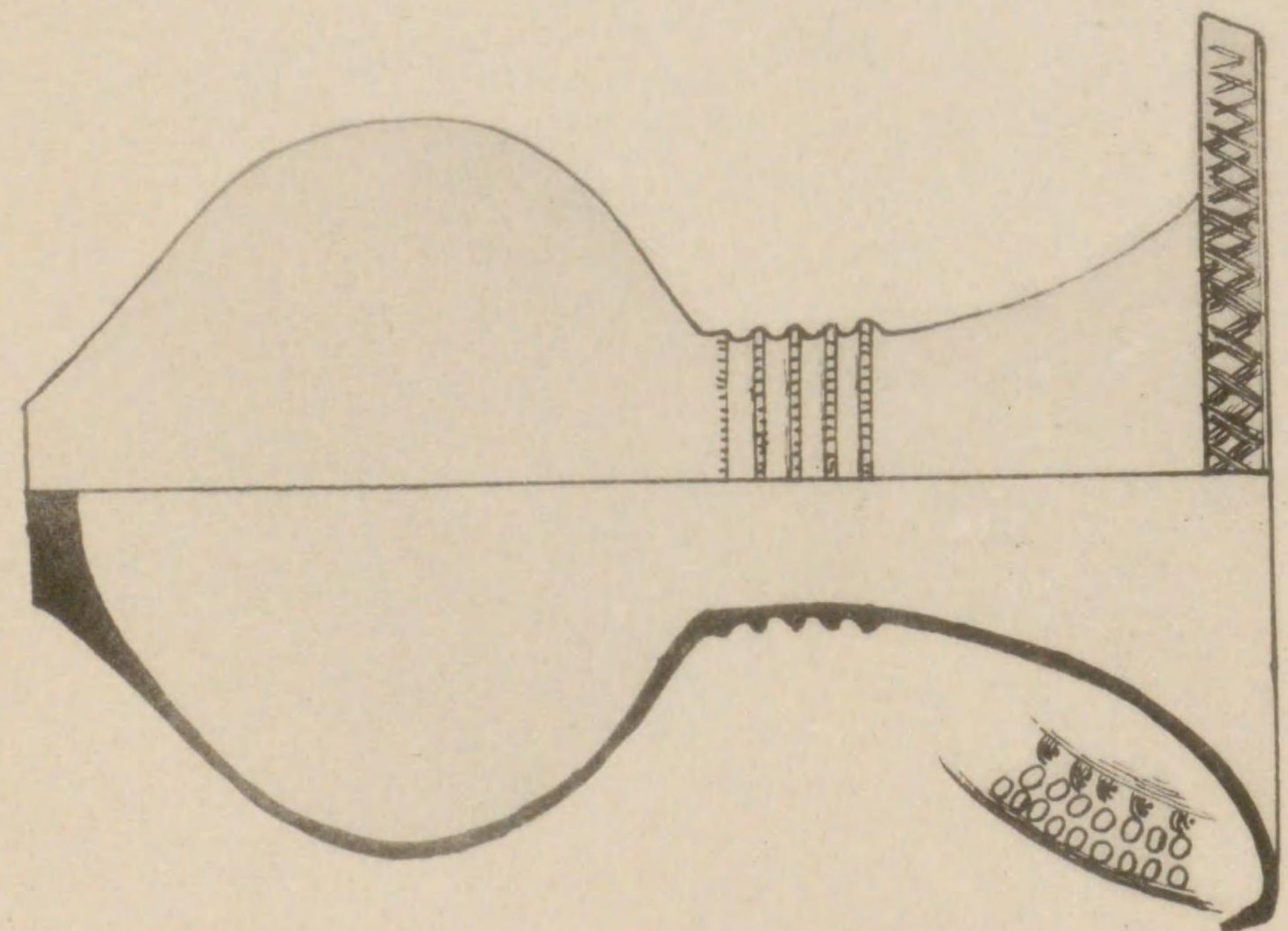
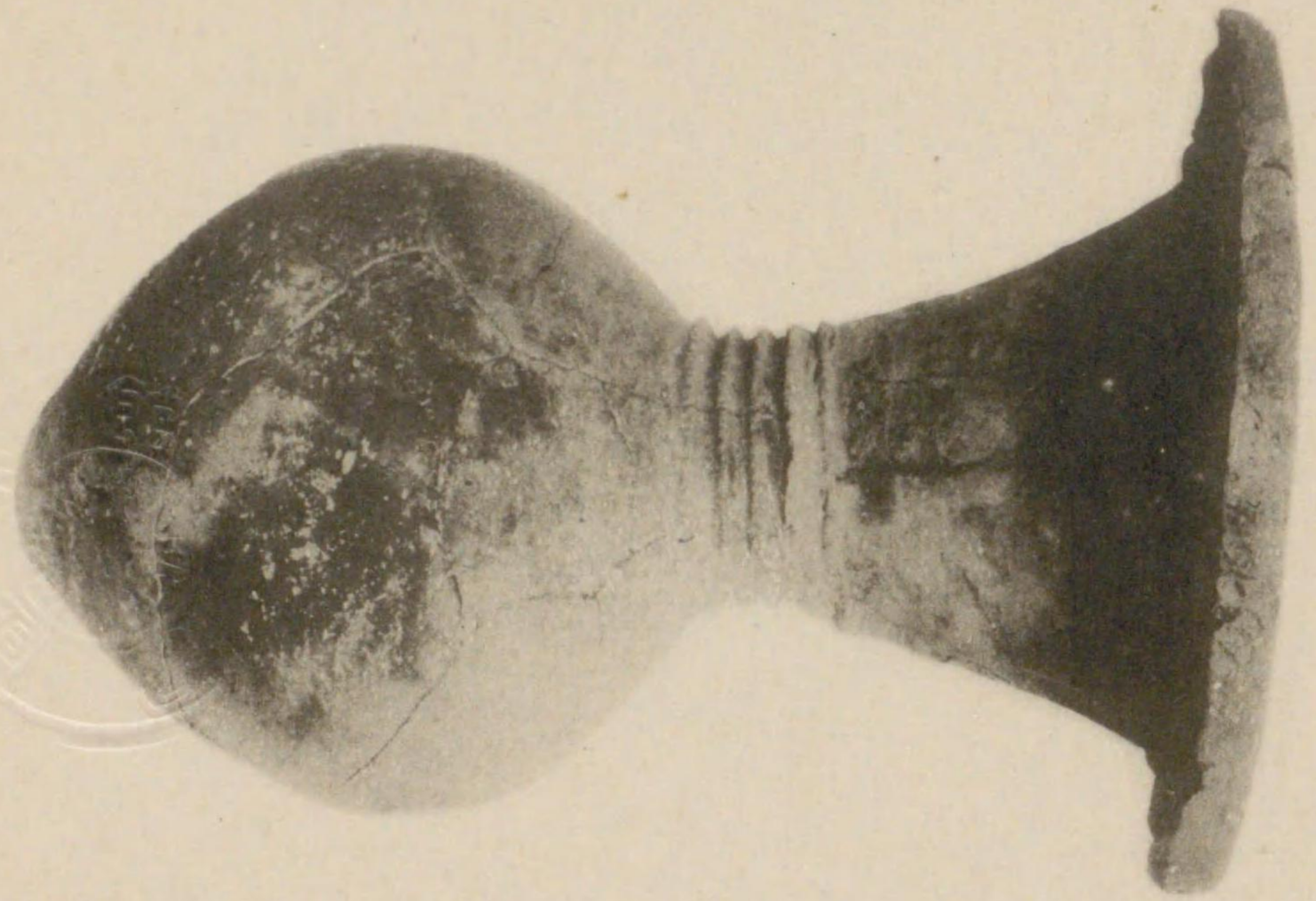
11. 大和國高市郡新澤村發見土器



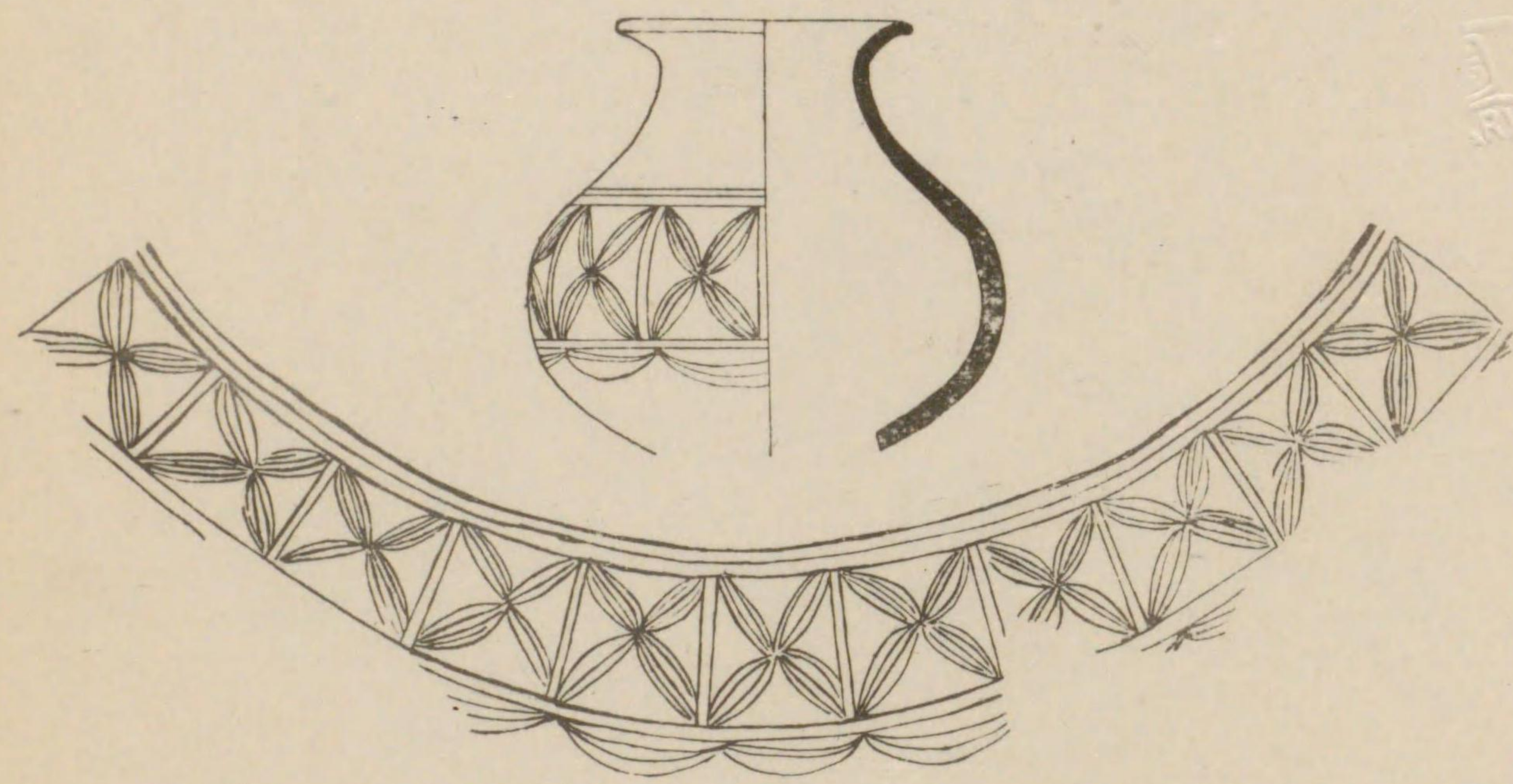
大和國高市郡新澤村發見土器

大和國高市郡新澤村發見土器

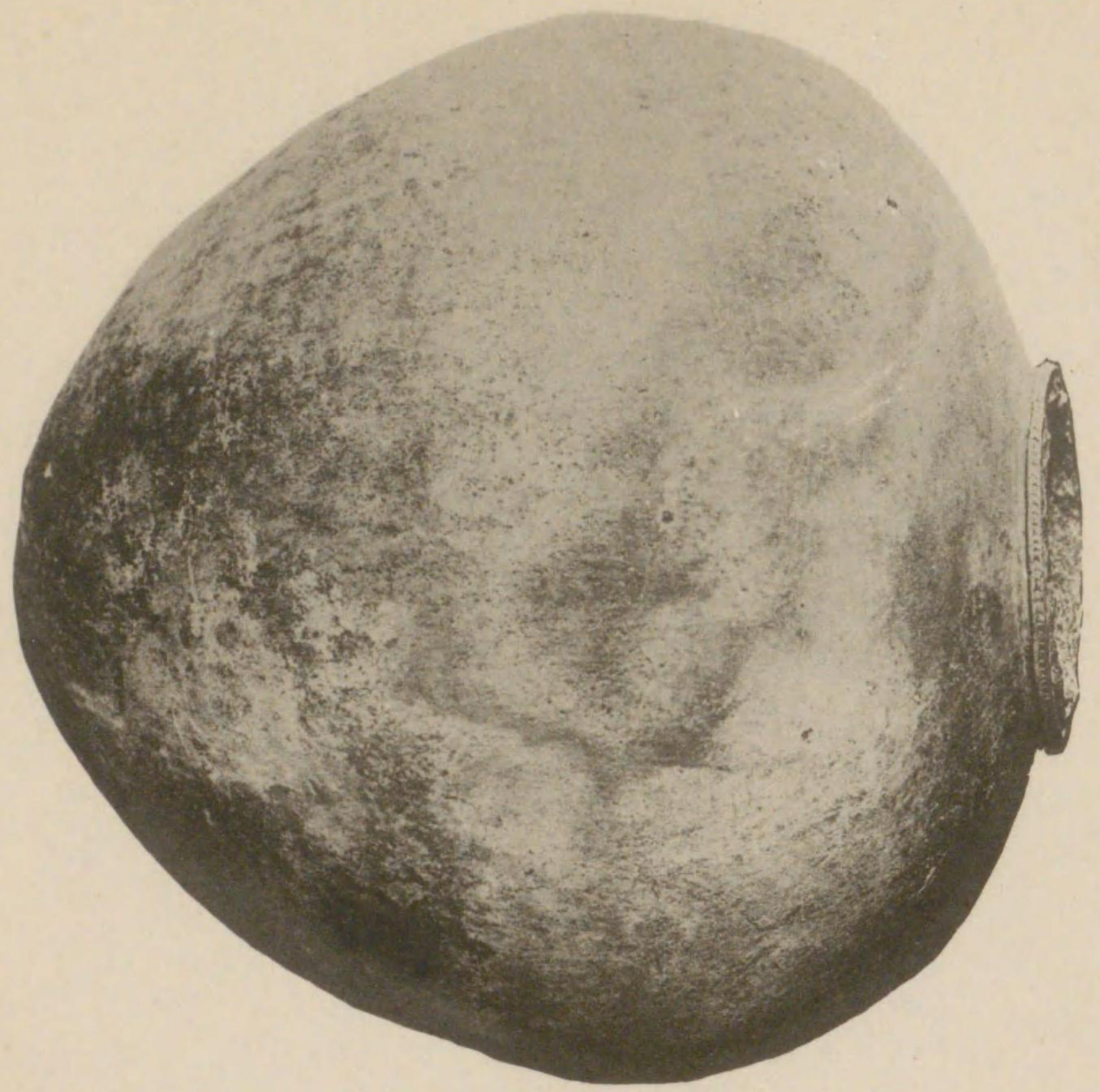
天津法租界三島郡安滿發見土器



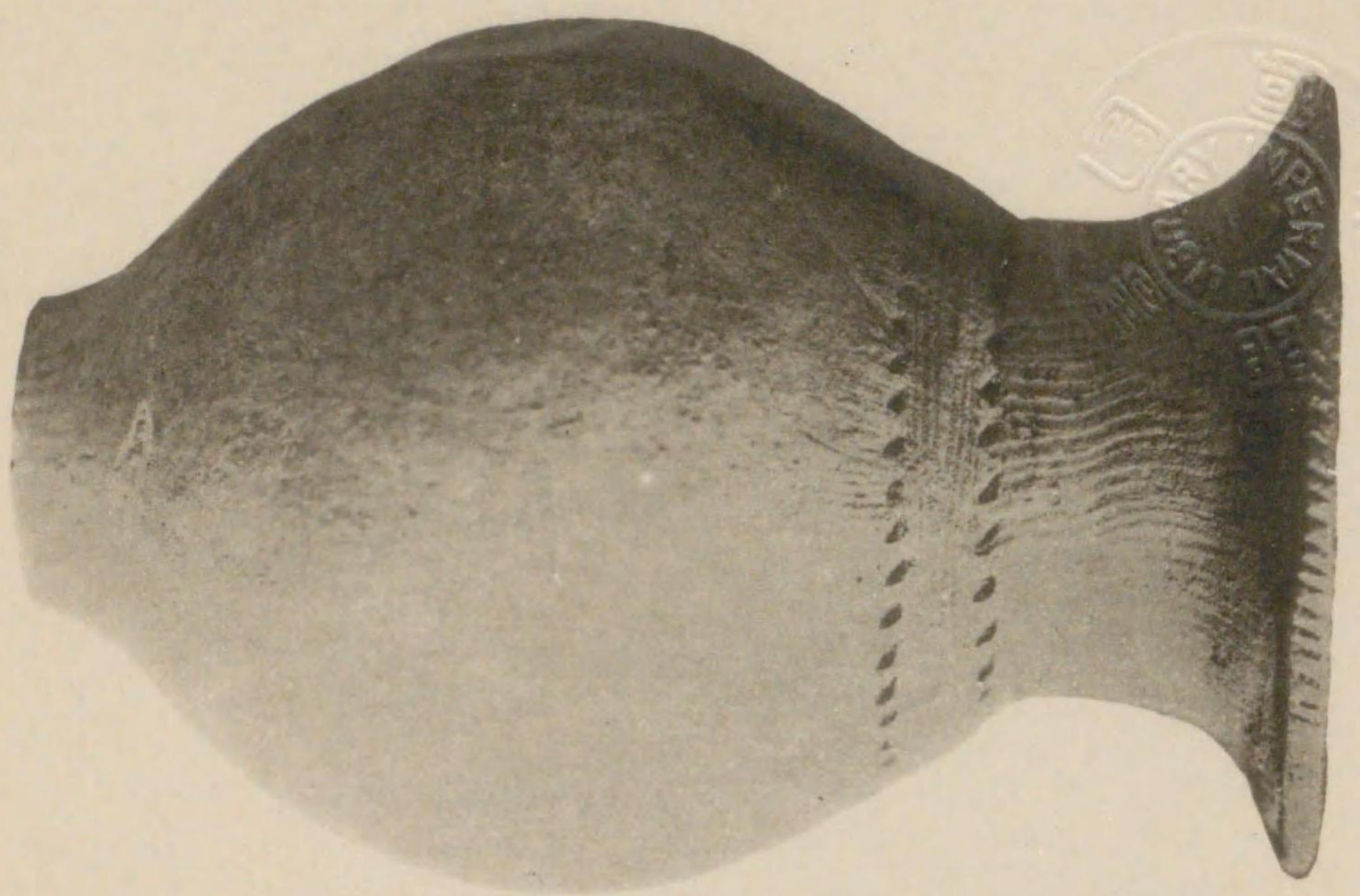
12. 天津法租界三島郡安滿發見土器



13. 播磨國明石郡玉津村吉田發見土器



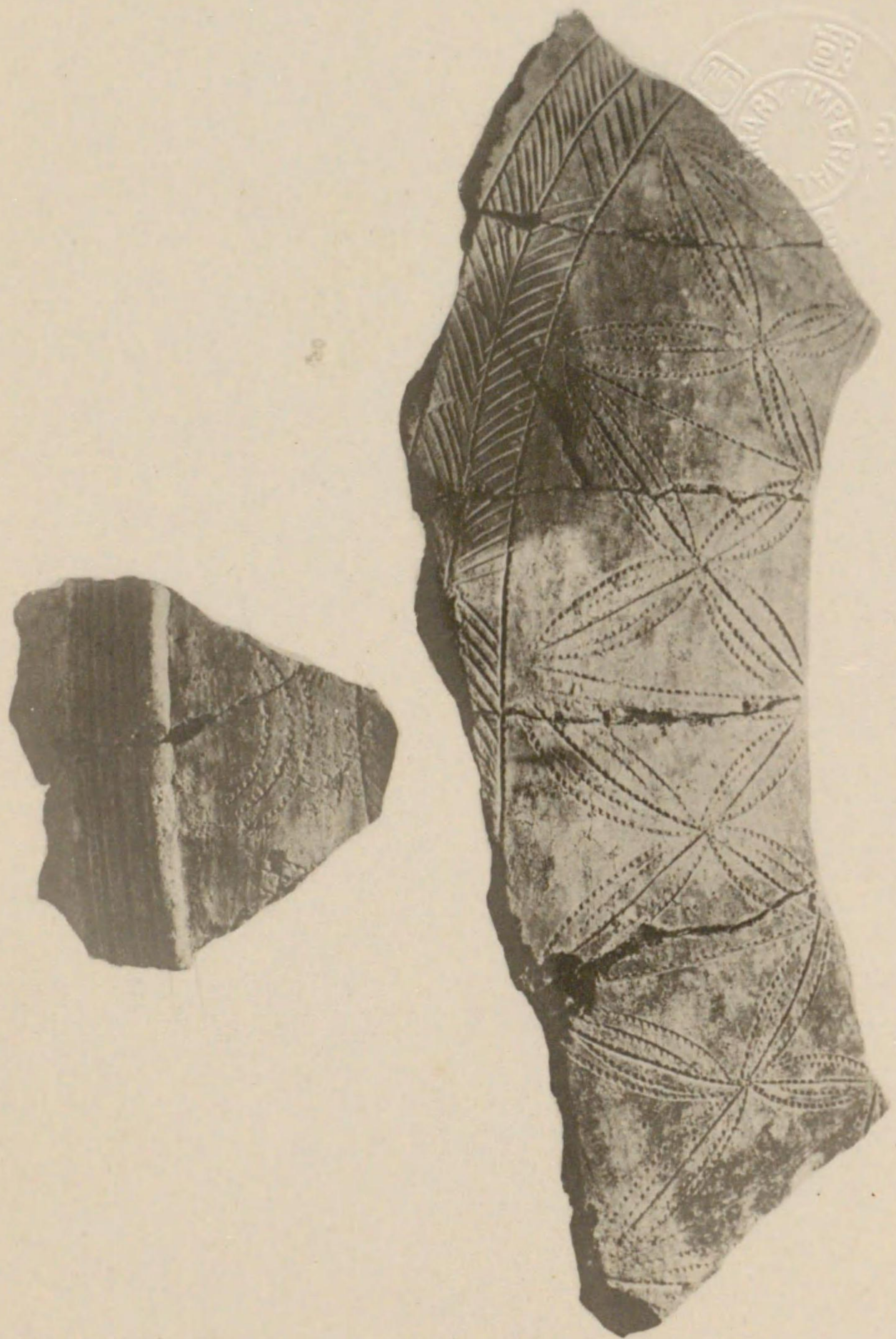
14. 備中國都窪那會敷町發見土器

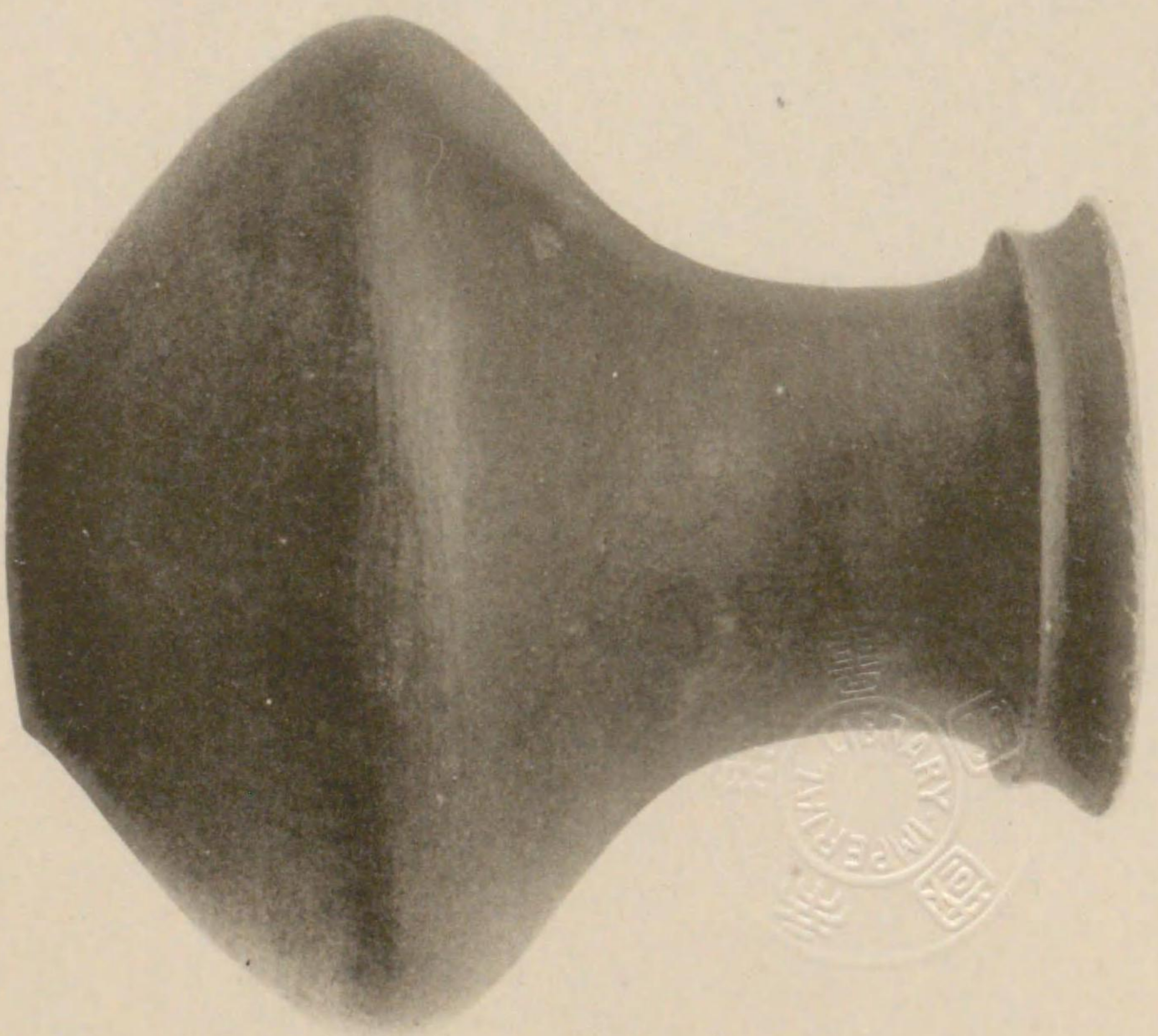
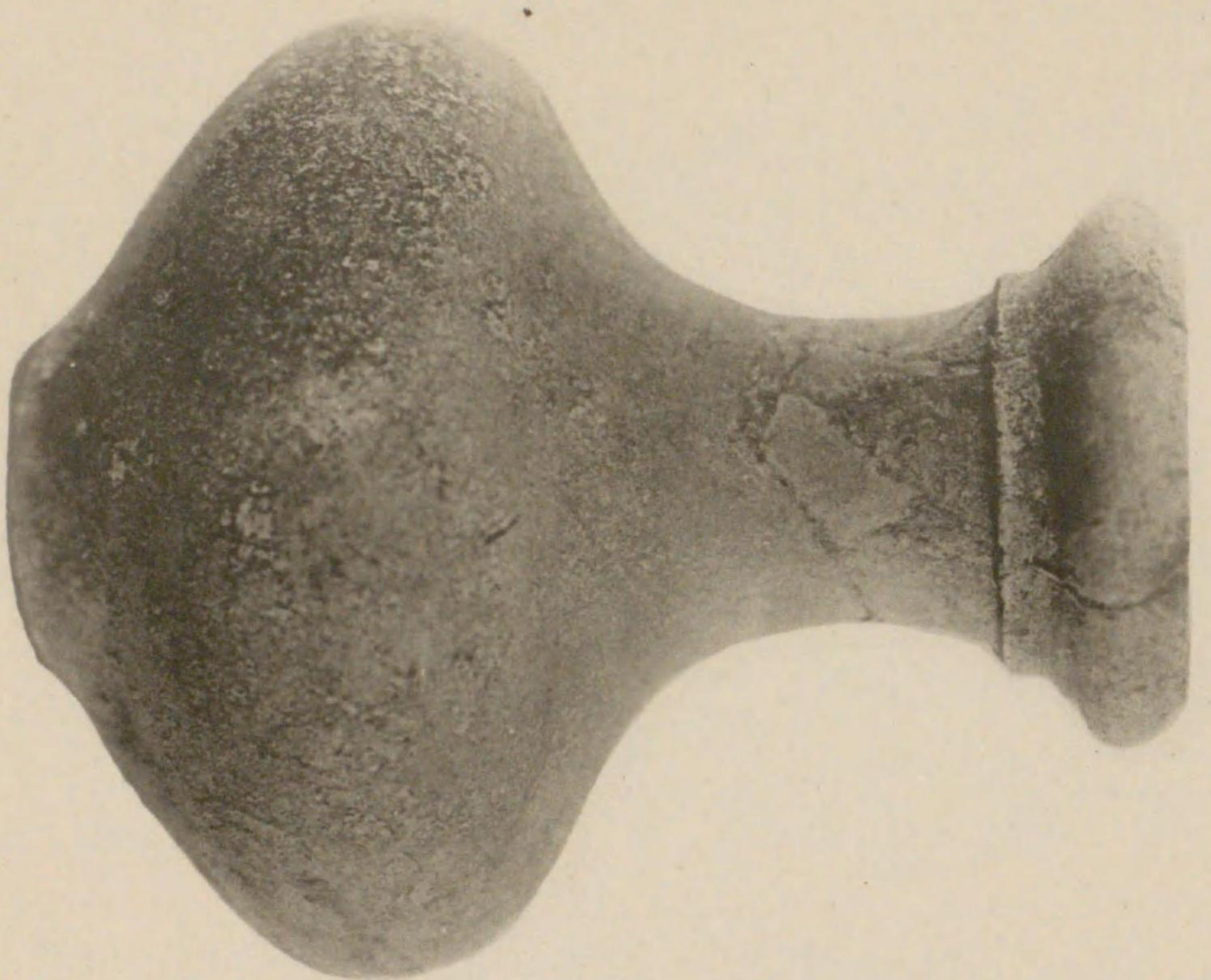


15. 周防國熊毛郡大波野發見土器銅器



16. 長門國豊浦郡安岡町發見土器





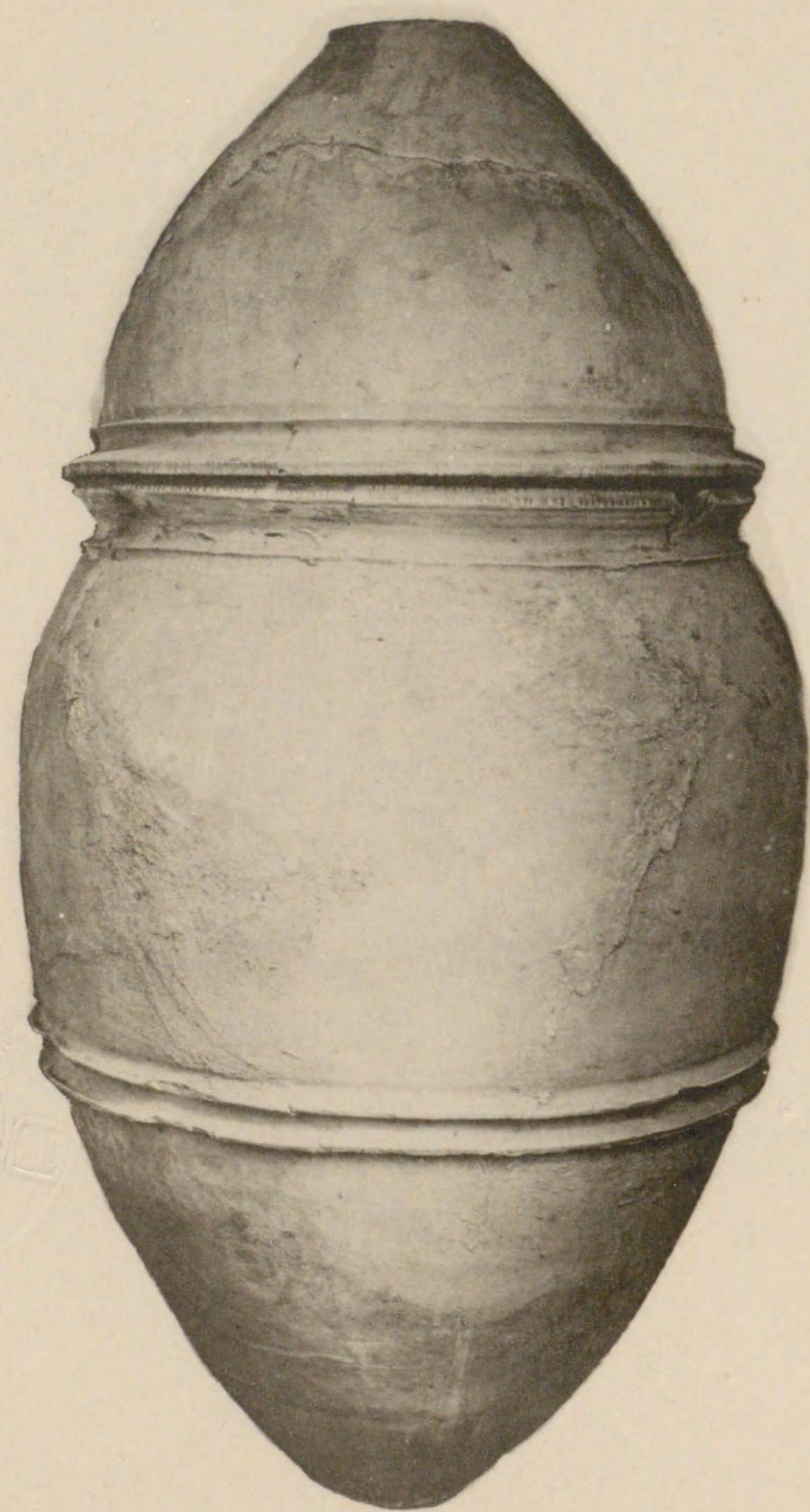
17. 筑前國二日市及豊前國糸田發見土器





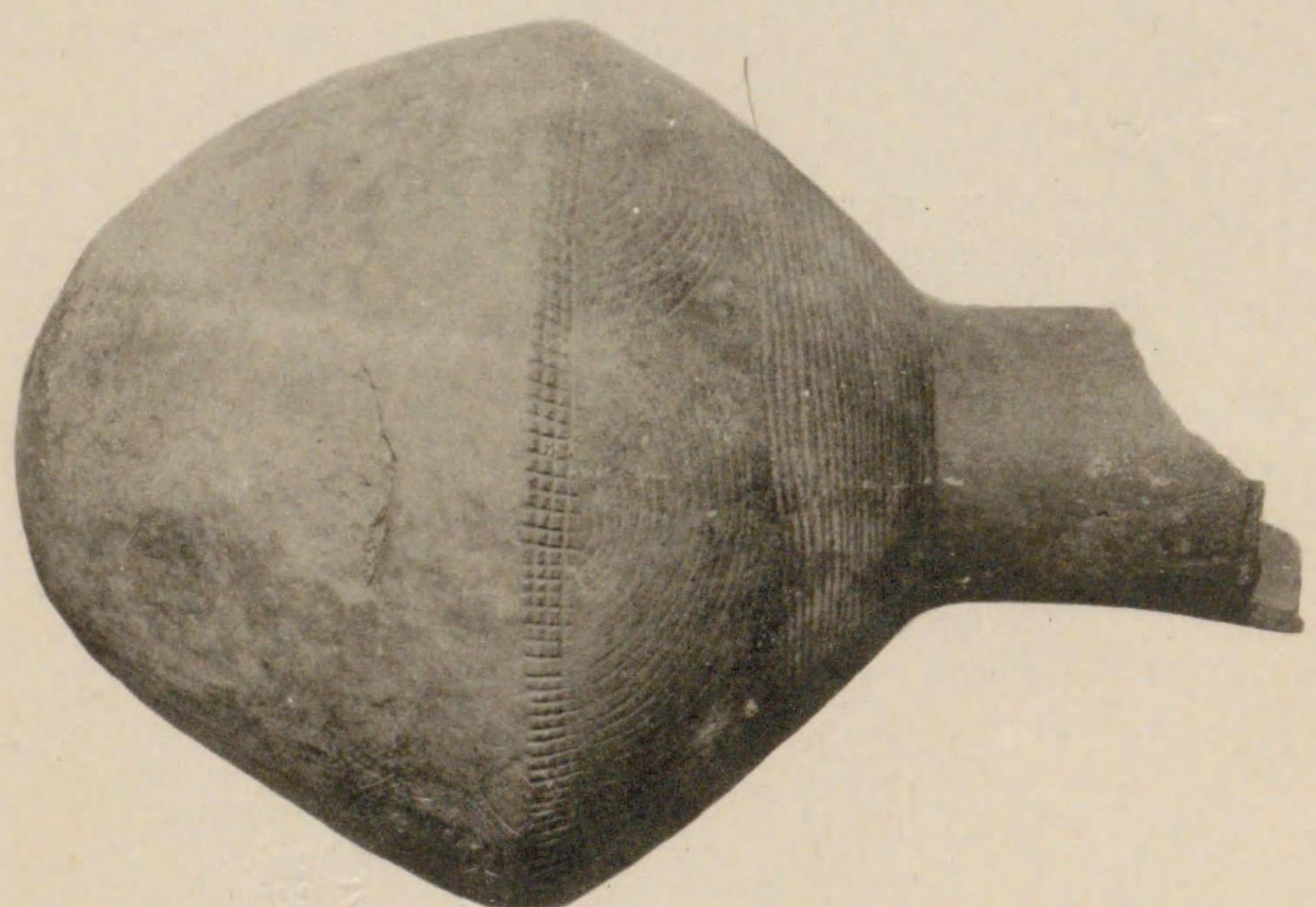
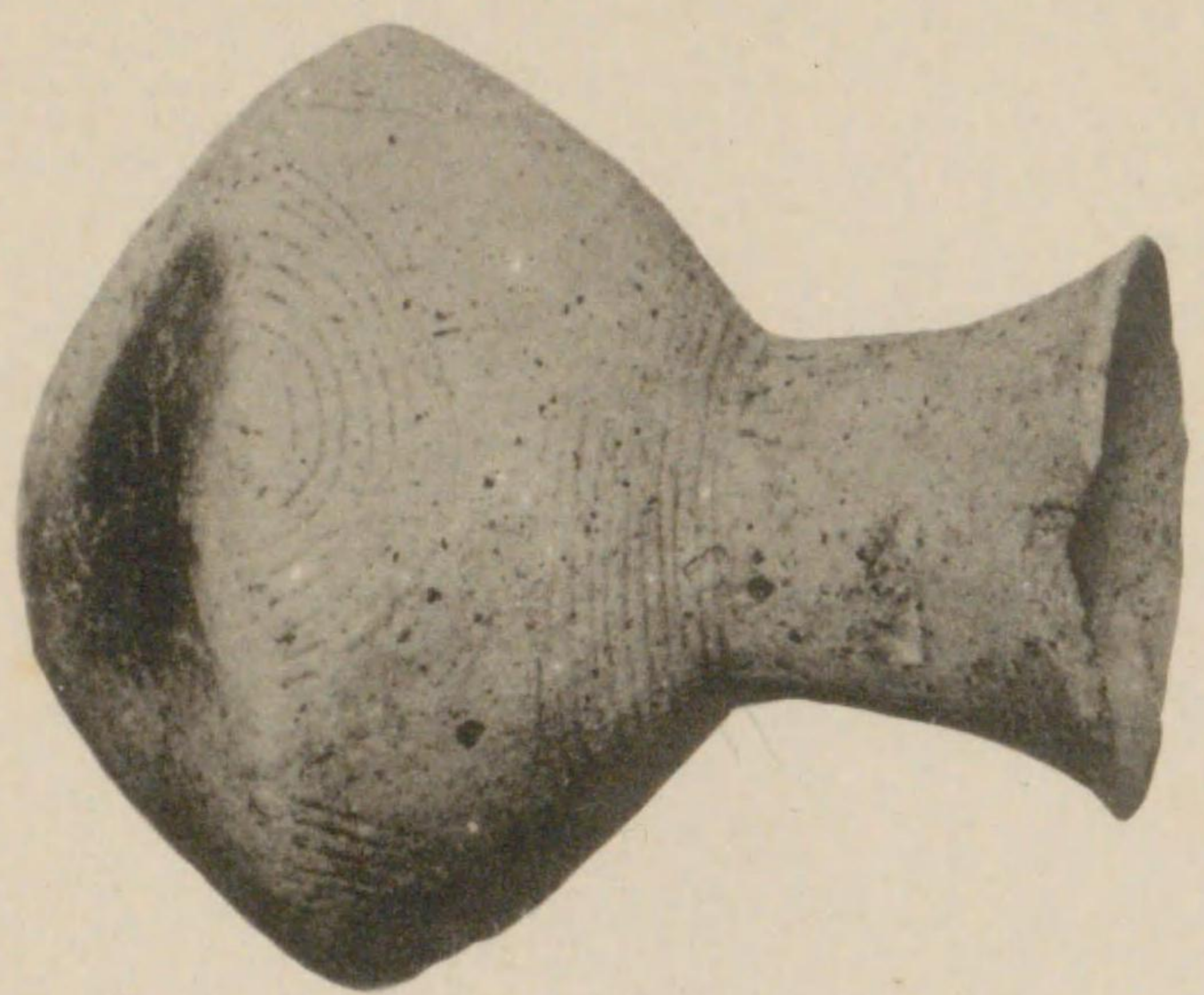
18. 筑前國今山發見土器





19. 筑後國三井郡寺福童發見甕棺





20. 肥後國下益城郡隈庄町發見土器



昭和八年八月二十五日 印刷
昭和八年八月二十八日 發行

彌生式土器圖集 第一輯

定價 二 圓

東京市澁谷區羽澤町九六

編者兼 發行者 森 本 六 爾

東京市芝區新堀町三七

印刷者 志 村 鋼 平

發行所

東京市澁谷區羽澤町九六

東京考古學會

振替東京三八四七二番

650
41

